

FMリバー「麻生けんたろうのFUTURE DREAM」

平成21年4月25日放送分要旨

(文責：日本銀行旭川事務所)

麻生けんたろう氏：はじめまして。今日のゲストは日本銀行旭川事務所長、尾家啓之（おいえ ひろゆき）さんです。尾家さんという名前は珍しいですが、どちらのご出身ですか？

尾家啓之旭川事務所長：私は東京生まれ、東京育ちですが、もともと父方のルーツは、九州大分の中津です。

麻生氏：日本銀行とは、具体的にどのようなお仕事をされているところですか？

尾家所長：皆さんにもっとも馴染み深いところでは、お札を発行しているところということができます。皆さんのお札には日本銀行券と書いてありますよね。しかし、日頃はそのようなことを特別に意識しないでお使いいただいていると思います。国民の皆さんが安心してお金を使っただけのように、日本銀行券の円滑な流通に努めています。

麻生氏：滞りなく当たり前のように私たちはお金を使っていますが、このことがとても大切な仕事なのですね。

尾家所長：空気のような存在 なくてはならないものだが日頃はあまり意識されることはない存在 と言ってもいいかも知れませんね。

麻生氏：お金の円滑な流通のために日々色々な努力をされていると思いますが、偽造券が出回らないこともそのひとつですよね。

尾家所長：それはとても重要なことです。人々が安心してお金の使えなくなると、経済の基本的なシステムが崩壊してしまいます。日本銀行ではそういったことが起こらないように、銀行券の鑑査や偽造防止の技術革新を行なっています。また、広い意味では通貨の価値が安定していること 1万円で例えると、1万円の価値が安定的である = 翌日も1万円の価値があること も安心してお金の使う重要な条件になるでしょうね。万が一、経済政策を誤ると、物価の安定が保てなくなりますので、そういうことが起こらないように日夜努力をしています。

麻生氏：旭川事務所はどのような仕事を行なっているのですか？

尾家所長：旭川事務所は日銀の最北端の事務所ですから、まずは旭川をはじめとした道北地域における日銀券（お札）の円滑な流通という仕事を担っています。地元の金融機関の協力を得まして、日々現金の受け渡しを行なっています。

また、当地の金融経済活動の把握（情報収集）と本部への報告も重要な仕事です。札幌支店と擦り合わせを行い、こうした調査結果を踏まえた情報発信（月1回の記者会見、事務所のホームページを通じた情報発信、講演活動など）をしています。よりよい情報発信を目指して、このほど（4月1日に）ホームページを全面的にリニューアルしました。

麻生氏：yahoo や google で、「日本銀行旭川事務所」で検索するとできますね。ホームページで、尾家所長のプロフィールを拝見しました。アメリカにも長く留学され、政治の世界もご経験されていたのですね。この両者から学びを得たところはどのようなところですか？

尾家所長：日本の経済を分析する上で、国内の事象のみをみていたのでは不十分です。海外の事象が国内にどのように影響するかを見極めることが大切です。また、純粋な政策論はとことんやるべきですが、それを実現する上で、政府や政治との接点（ポリティカル・エコノミー）・力学についても十分配慮することが必要だと思えます。

麻生氏：リーマン・ショック以来、経済全体が悪い悪いと言われていますが、そういう中で旭山動物園の成功例のような光も見られます。尾家所長の目から見て旭川はどのように映りますか？

尾家所長：私は、一昨年の7月に旭川に赴任してきましたが、北海道で勤務するのは初めてです。縁も所縁（ゆかり）もない北海道旭川に来て、実際に生活をしてみて、とても快適に過ごしています。旭川に来る前の旭川のイメージは、日本一元気のいい動物園がある街、ラーメンの街、厳冬の街といった程度だったと思います。しかし、実際に生活してみて、ここには、素晴らしい魅力がほかにもたくさんあるなと思いました。

麻生氏：具体的には？

尾家所長：詳しくはホームページに収録しています私のエッセイ「旭川にて思う」にも書いていますが、豊かな自然環境と食材、澄みきった空気と水、都会と比べると

ストレスの少ない社会 通勤ラッシュがないだけでどれだけ一日の生産性が高まるか だと思います。何といても私どものような外者に対してオープンな気質などがあり、私たち転勤族にとって第 2 の故郷になる方もいるのではないのでしょうか。

麻生氏：同感です。実際、私は横浜出身ですが、サラリーマン時代、旭川で勤務をし、多くの方に受け入れてもらいました。結婚を機に旭川に住むことを決め、私も旭川が第 2 の故郷となりました。

尾家所長：是非、独身の転勤族の方には、麻生さんのように結婚等を機に旭川を第 2 の故郷にして欲しいですね。

麻生氏：このほかに旭川を活性化させるアイデアはお持ちですか？

尾家所長：なかなか地域活性化の万能薬のようなものはありませんが、基本的には市民、地域住民の一人ひとりの活性化なくして地域の活性化はありえないと考えています。一人ひとりの能力を開発し、伸ばしてそれが全体の活性化につながるような仕組みが必要ですね。誰かがやってくれるだろう、自分には関係ない、といった無関心が一番大敵です。全員参加型でやらないとこの街はひよっとしたらダメになってしまうというくらいの危機意識を持って取り組んでいくことが大事ですね。このように申し上げたうえで、やはり攻めるべきところは、この地域の強みをさらに強めることです。この地は農業をはじめとした一次産業とこれに付随する食品加工業、観光、医療サービスに潜在的な優位があると思います。もちろんこうした分野以外でも重要な産業や企業は多々ありますが、政策としては強みをさらに研ぎ澄まし、連携（コラボレート）していく、そうすれば必ずや活路は拓けると信じています。

麻生氏：日本銀行に入行される前の 20 歳の頃はどんなことをされておりましたか？

尾家所長：人に堂々と語れるようなものではありませんが、社会人になる前に、出来るだけ世界をみてやろうと思っていましたね。学生時代にはお金はありませんでしたが、時間だけはありましたので、20 歳の時にはドイツに企業研修と称して 2 ヶ月ほど滞在し、その後約 1 ヶ月かけて可能な限りヨーロッパを無銭旅行（バックパッカー）しました。今でも大変得がたい経験だったと思っています。

麻生氏：こういった旅行を通して、世界をまたにかけた仕事に就きたいと思ったのではないですか？

尾家所長：国際社会では紛争が絶えず、安定的な国際社会実現のためには、国際平和が重要だと大それたことを考え、国連など国際機関の職員になりたいと思っていました。そのためには、外務省あたりをステップに出来ないかなどと考え、外務公務員試験の勉強をしていました。

麻生氏：どうして日本銀行に？

尾家所長：私は政治学科で日銀に多い経済学部ではないんですが、ひょんなことから、日銀に来ないかと声をかけられ、当初、思っていた分野とは違いましたが、公に奉仕するという意味では共通すると思い日本銀行に入行しました。

麻生氏：旭川の若者に一言お願いします。

尾家所長：是非、若い方には「夢」(dream)を持ってもらいたいと思います。夢は実現できないものなどと屁理屈を言う人がいれば「目標」と言い代えてもいいかも知れません。これを実現するためにお金と時間を有効に使う。チャールズ・チャップリンが非常にいい言葉を残しています「人生に必要なものは勇気と、想像力と、ほんの少しのお金だ」と。

麻生氏：名言ですね。

尾家所長：もちろんお金が全てではありませんが、最低限、現代社会のなかで、人を喜ばせるのも、悲しませるのもお金が重要な役割を果たしています。この番組にちなんで申し上げれば、皆それぞれの将来の夢(future dream)実現のためにお金を有効に使いましょう、というふうに思います。

麻生氏：ありがとうございました。